

平成18年度 施策評価シート

総合計画における位置付け等

平成18年10月25日記入

基本目標	躍動し 魅力あふれる交流拠点都市をめざして	施策コード	32320
政策名(章)	第2章 質の高い都市基盤の整備を進めます	評価担当部	土木部
基本施策名(節名)	第3節 円滑な道路交通の確保	評価担当課	道路管理課
施策名	道路管理の充実	課長名	淡野 浩

1 施策の目的・概要(目的はわかりやすく記入)

道路管理の充実に向け、市道の境界確定等により道路台帳の整備を進め、道路環境の向上を図るため不法占用の適正化の推進及び道路愛護意識の高揚を図る。
市道の境界確定については約9割が確定済みであり、道路情報管理システムについては部分稼働しており、全面稼働は平成20年度の予定で整備を進めている。また、その他の経常的事業についても継続して取り組んでいる。

2 事業費・人員

年度	平成14年度(決算)	平成17年度(決算)	増減の主な理由
事業費		279,041	
人件費		153,594	
市民一人あたりの事業費	930	649	
合計	573,046	432,635	

*人件費は、一人あたり H14:839万円、H17:805万円として算定。人口は、61.6万人(H15.4.1現在) 66.7万人(H18.4.1現在)とした。

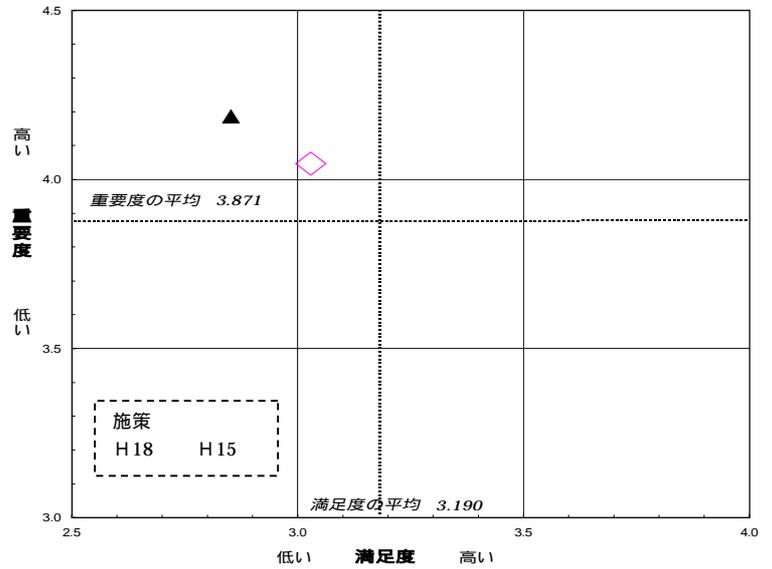
3 成果・活動指標

	指標名	指標の基準値の定義	基準値(単位)	基準年度
指標1	道路境界確定率(%)	道路境界確定延長 ÷ 市道認定延長 × 100 (H14確定延長:1,508,984m、認定延長:1,646,895m)	91.63%	14
指標2	道路台帳整備実施率(%)	道路台帳整備実施延長 ÷ 市道認定延長 × 100 (H14実施延長:1,548,316m、認定延長:1,646,895m)	94.01%	14
指標3				
指標4				
指標5				

	H17目標値/実績値		中間年度	中間年度の目標値	最終年度	最終年度の目標値	目標値の考え方(根拠)
指標1	1,534,080	1,533,886	19	92.48% (1,548,989m)	21	92.82% (1,563,966m)	実績から考慮した。 (旧相模原市内のみ)
達成率	100%						
指標2	1,589,190	1,588,880	19	96.41% (1,614,814m)	21	97.37% (1,640,631m)	数年の実績を考慮している。 (旧相模原市内)
達成率	100%						
指標3							
達成率	#DIV/0!						
指標4							
達成率	#DIV/0!						
指標5							
達成率	#DIV/0!						

4 市民満足度調査結果(平成18年度実施分)

この施策の満足度は3.029で51施策の中で48番目。
 重要度は4.047で16番目である。
 改善要望度は0.2384で10番目である。
 年齢別にみると、満足度は60歳以上で高くなっている。
 重要度は40歳代で低くなっている他は、年代による差はあまりみられない。
 前回調査と比較すると、満足度は施策の順位に大きな違いはみられないが、重要度は下がっている。
 満足度の順位では、40歳以上で前回調査より上がっている。
 重要度の順位では、70歳以上で大幅に下がっている。



5 1次評価(3つの視点から評価を行う)

視点の種類	評価基準・着眼点	評価点	それぞれの視点に対して評価の具体的根拠	
有効性	各事業が果たす施策に対する目標の達成度合いを把握し、効果の高い事業を実施している	4②1	施策評価判定基準のとおり	
効率性	最少経費で最大効果が得られる事業構成となっている	④21		
市民満足度	市民満足度調査により市民ニーズを把握し、市民の立場に立って事業展開している	4②1	施策評価判定基準のとおり	
合計		8	評価結果に基づく区分(4項目の合計点数による) A(12から10点) B(9から5点) C(4点以下)	1次評価 B

* Aは、良好、Bは、事務事業の見直しが必要、Cは、事務事業を統合・廃止の方向

6 課題と解決策(現状または、評価結果から)

課題	道路境界確定事業...日々の個人申請による受付事務の煩雑さ 道路境界整備事業...予算・人数の関係から、更新が6年周期となり、即時対応ができていないこと
解決策	道路境界確定事業...公嘱等への受付事務一括委託 道路境界整備事業...リアル対応可能とするための、予算・人数の一時的措置

7 2次評価及び意見(1次、2次で評価に相違がある場合など、必要に応じて意見を記入)

成果を表す指標の設定が難しい施策であるが、今後、施策目的に適合した指標の設定を検討する必要がある。また、設定された指標の目標値の水準が甘く高評価となっている。今後は、合併後の施策のあり方などを考慮したなかで、事業展開を行う必要がある。	2次評価 B
---	-----------

* Aは、良好、Bは、事務事業の見直しが必要、Cは、事務事業を統合・廃止の方向

8 3次評価及び意見(評価結果及び課題・解決策について、必要に応じて意見を記入)

	3次評価
--	------

* Aは、良好、Bは、事務事業の見直しが必要、Cは、事務事業を統合・廃止の方向

